

男たちの夢が紡いだ 尾道に息づく歴史情緒



「のこぎり商い」が育んだ港町

北前船での商いは、「一航海千両」と言われるほど、各寄港地にも経済的な繁栄をもたらしました。これは当時の国内の地域間価格差によるため、北海道で多く獲れるニシンは、西日本では肥料として高く売れる一方、衣類の生産技術の差から、西日本の古着は北日本では高価な商品となりました。また、西日本でニシンを売って空になった船に古着を積み込み北日本で売りました。このように、行きも帰りも商売をする北前船は、押し引いて切るのこぎりに例えて「のこぎり商い」とも呼ばれ、大きな利益を得ました。尾道でも、北日本から運ばれた昆布、ニシンなどの海産物が販売され、周辺地域で生産されていた塩や畳表、柿渋などが北陸などで売買され、船主たちに多大な富をもたらしました。



毎年1月に住吉神社で開かれる新年初市では当時の活況を感じることができます



商人たちの名前が刻まれた住吉神社の玉垣。日本海側の地名がみられ、北前船との関わりがうかがえます



浜で仕事する力自慢の男たちが持ち上げて力くらべをしたカ石

危険な航海と信仰

熟練の操船技術を持つ船乗りにとっても、嵐にあえば「板子一枚下は地獄」の恐怖にさらされます。商品が無事に運ばば多くの利益を得られる北前船も、沈んでしまえば一巻の終わり、全財産を失う船主もいました。危険と隣り合わせの航海では、船主たちは安全を神仏の庇護に求めました。その名残に、今も尾道では港と並行して、多くの寺社が立ち並んでいます。また、航海の無事を祈願して船絵馬などを寺社に奉納しました。



奉納された北前船絵馬 (浄土寺所蔵)

現在も息づく名残り

■住吉神社



北前船の商人たちが寄進した玉垣や常夜燈が残されています。現在も昆布などの初セリや住吉祭、尾道みなと祭など、尾道を代表する催しの会場となっています。



カ石には持ち上げられた人の名前が刻まれています

■浄土寺

北前船等の商人からの信仰を集めた寺院。常夜燈や北前船絵馬、港町の繁栄を表す尾道絵屏風が残っています。



■厳島神社(八坂神社)

北前船の底荷として、尾道石工の造った花崗岩の石造物は各寄港地へ運ばれました。厳島神社にある狛犬のように玉に乗った狛犬は、尾道から運ばれ日本海側の寄港地に点在しています。



■瀬戸田の町並み

瀬戸田港も、沖乗り航路の北前船寄港地として栄えました。廻船業で繁栄した堀内家塩蔵や常夜灯などが残り、港町の風情をみることができます。



第26回 北前船寄港地フォーラムin尾道

尾道市制施行120周年記念と、尾道港開港850年のイベントとして、全国各地の北前船寄港地で開催しているフォーラムを尾道で開催します。

日11月16日(金)
13:00~17:30
場しまなみ交流館
■テーマ
「名産品でつながる北前船寄港地～地域間交流新時代の幕開け～」
■基調講演・パネルディスカッション
■各市町PR物産展等
■文化振興課
(☎0848-20-7425)